

第 43 回 栗東市中小企業振興会議 会議概要

■日時：令和 7 年 2 月 21 日（金） 午前 10 時 00 分～午前 11 時 30 分

■場所：栗東市役所 2 階 危機管理センター防災研修室

■出席：《委員》

清水 憲委員（会長）、近藤 宏一委員（副会長）、田中 義信委員、杉本 浩志委員、
柳原 和範委員、水沼 崇委員、福永 直人委員、高野 正勝委員

《オブザーバー》

栗東市商工会担当

《事務局》

商工観光労政課課長、商工観光労政課係長、
商工観光労政課事務局担当

《委託事業者》（株）しがぎん経済文化センター

■欠席：玉田 和久委員、掛作 茉莉子委員

1. 開会

（商工観光労政課課長）

2. 市民憲章唱和

3. あいさつ

（清水会長あいさつ 省略）

4. 報告事項

（1）商工振興ビジョン後半期ロードマップに係る進捗状況について（資料 1）

○事務局説明（省略）

【おもな意見交換】

委 員：計画はどのように決めたのか。

事務局：別の計画に付随するような目標値がある。例えば「7 創業活動への支援」については、創業等事業計画が国に認められている。そこに掲げている数値を目標値としている。目標値は過年度実績の平均値から 20%アップという設定をしている。別の計画がない場合は、昨年度の実績値から目標値を決めている。

委員：「メルマガの登録者数」「りっとうバル参加事業者数」「商品券取扱店舗数」の3項目は目標を達成しているが、その他の項目は目標未達となっている。数字がかなり悪い項目も散見される。この結果を踏まえて、令和7年度は挽回するのか、このまま縮小していくのか、そのあたりの考えを伺いたい。

事務局：未達となっている信用保証料の助成制度については、未達幅が大きくなっているが、信用保証協会と連携して制度の周知などに努めていきたいと考えている。

委員：信用保証料とか利子補給という項目のことを言っているのではない。これらの項目は多ければいいというものでもない。それ以外の経済活性化に向けた取組目標が未達となっていることを気にしている。経済活性化に関する項目の未達は、行動で補うなど対策をしていかななくてはいけないと考えている。例えば創業者数の実績値は、令和4年度34人、令和5年度23人、令和6年度18人と減少傾向にある。創業者が全体に減少しているのであれば、それに比例して減少すると思うが、そうするとこの計画が無意味に思えてしまう。計画を完遂するためには、努力が必要である。令和7年度も取り組むのであれば方向性を決めるべきで、情性でやり続けるのは意味がないと考える。

事務局：第一期ビジョンでは目標未達となっている項目が多くなっている。第二期ビジョンについては、商工会と話し合っ、単に目標を下げるのではなく、極力達成できるような目標を考えていきたい。

会長：未達項目については、目標達成に向けて、年度ごとの見直しの中で挽回策を考えてほしい。

事務局：わかりました。

委員：「4. 人材確保と生産性向上」について、日本人の採用は多様な採用方法が確立されていると思うが、外国人の採用について、どこに相談したらいいのかなど悩んでいる事業者が多いと思う。特に、建設業や製造業では外国人へのニーズが高いと考えられるので、第二期ビジョンの中で取り組む必要があるのではないかと。

事務局：業種によって求める人材のニーズは変わってくると思う。そういった事業者のニーズを今年度実施した事業者アンケートの中で把握しているので、その結果などを踏まえて対応を検討していきたいと考えている。

5. 協 議 事 項

(1) 第二期栗東市商工振興ビジョン（案）パブリックコメント実施結果について（資料2）

○事務局説明（省略）

【おもな意見交換】

委 員：期間が短かったということはないか。

事務局：パブリックコメントの実施要領では期間が1か月と定められている。今回も期間を1か月間として実施した。

委 員：匿名なのか。

事務局：記名式である。

副会長：パブリックコメントで意見等がなかったことは残念である。もめるような項目がないとコメントが集まりにくいということも考えられる。

これで第二期ビジョンについては確定ということになるが、若干の誤字脱字などの修正が必要な箇所があるのと、一部に第一期ビジョンからの修正ができずに残っているところがある。内容に関わる変更ではなく、事務的な変更であることから、修正内容の確認は正副会長に一任していただきたい。なお、議会提出前に、委員のみなさまには修正後の正式版を確認いただくようにする。

会 長：正副会長への一任でいいか。

委 員：（異議なし）

事務局：第二期ビジョンについては、再度見直しを行い、正副会長に確認いただいた上で、委員のみなさまに確認いただくようにする。

(2) 新年度の主な実施事業の概要（案）について（資料3）

○事務局説明

・「新年度の主な実施事業の概要（案）について（資料3）」を基に次の2つの事業を説明。

事業①：（仮称）栗東市中小・小規模企業物価高騰対策・デジタル化支援事業

事業②：空き店舗等活用促進補助金事業

【おもな意見交換】

委員：事業①について、対象者が市内事業者となっているが、購入先も市内に限定してはどうか。市内限定が無理でも、市内で購入した場合、補助率を高く設定するなどの工夫ができないか。そうした対策を講じないと、ネット購入が増えたりする懸念がある。購入事業者だけでなく、販売事業者にもメリットがあるようにした方が良いと考える。

事務局：今後、具体的な事業内容については、商工会と相談し決めていきたいと考えている。本事業については、国の物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用しているので、できるだけ簡便な手続きとなるようにしていきたいと思っているが、国の会計検査の対象にもなっているので、その基準の中で対応を検討していきたい。

委員：事業②について、創業塾修了者の補助率が高く設定（3/10）されているが、新規創業者全員を 3/10 にしてはどうか。なぜ創業塾修了者だけが優遇されるのかわからない。

事務局：創業塾は経産省から認められている創業支援事業で、空き店舗以外の補助金、例えば持続化補助金でも創業枠というものがあり、一般枠の上限が 50 万円のところ、創業枠の上限は 200 万円となっている。国が創業事業を進めていく上で、創業者向けの対応をしており、栗東市についても特に創業者への支援に取り組んでいる。なお、補助金額については、計画の中間期である令和 9 年度に妥当性を検証し拡充するなど見直すことも考えている。

委員：国の施策として創業に力を入れていることは理解したが、栗東市で創業したいという方に対しては、創業塾修了者以外にも市独自の考え方で支援してもいいのではないか。

事務局：りっとう創業塾の修了者のみが対象となっているのではなく、他市町の創業塾修了者も対象に含まれている。ただし、このような縛りがあることで不利益を被る方がいるのであれば、対応を検討していきたいと考えている。

（３）第二期栗東市商工振興ビジョンロードマップ（案）について（資料４）

○事務局説明

- ・「第二期栗東市商工振興ビジョンロードマップの概要（案）」（資料４－１）と「第二期栗東市商工振興ビジョンロードマップ（案）」（資料４－２）を基に説明。

【おもな意見交換】

委員：第一期ビジョンを策定した当時は、大企業と地元中小企業との取引を増やすことに力を入れていたが、そういった文言がなくなって、市内循環型という文言が多くなっている。商工振興ビジョンは商工業事業者が潤うためにつくるものであるが、工業事業者は市民と直接取引をしているケースは少ないのが実情である。また、概要版に記載されている KPI をみると、現状維持という項目が多くみられる。ビジョンというのは商工振興に向けた大きな考え方を示すものと理解しているが、第二期ビジョンは小さくなっている印象を受ける。少子高齢化、人口減少と厳しい状況にあるが、栗東市はまだ恵まれた環境にある。商工業が活性化するような、希望の見える発信を是非してほしい。

事務局：大企業に求める施策について本編では記載しているが、概要版についても記載を検討していきたいと考えている。また、KPI については市の総合計画や総合戦略の目標値と合わせている部分もある。そういったことを踏まえ、現状はこのような形で進めていきたいと考えている。

委員：市内事業所の総売上高は、中小企業のみを対象としているのか。

事務局：大企業も含まれている。

委員：大企業が売上を伸ばし、中小企業が売上を減らしても目標を達成できるのはいか。この会議に出席しているのは、大企業のためではなく、地元中小企業のためである。中小企業の数値がわからないと判断ができない。議論の出発点が変わってくる。就業者数は中小企業だけの数値なのか。

事務局：就業者数にも大企業が含まれている。これらは経済センサスの数値を利用しており、中小企業だけを取り上げるのは難しい。就業者数については、作成段階から大企業が含まれていることが懸念されていた。新しく大企業が進出すると就業者数が大幅に増えることになるので、そのような場合は、そういった特殊要因を把握しながら KPI の管理を行っていきたい。また、そういう状況を振興会議の中でも随時説明させていただきたいと考えている。

委員：総売上高や就業者数で、大企業を除いた数値は把握できないのか。

事務局：基本的に難しいと思うが、市が把握している情報などを踏まえて、事務局で再精査したい。

委員：経済センサスなどマクロ的な数値では目標がはっきりとない。商工会が動いてデータをとるなどの方法を検討してはどうか。その方が中小企業の実態がわかるのではないか。

委員：売上高が現状維持ということは、物価高騰が続いている中で、中小企業は赤字になりなさいと言っているようなものである。ただし、商工会がアンケート調査をしても、どこまで正確に回答してもらえるのかという問題もある。

副会長：次期ビジョンの KPI 策定過程でも同様の議論があったが、この数値はあくまで目安である。KPI というのは明確な数値で示す必要があり、こういった形にならざるを得ないところがある。ただし、実態としては、数字ではなく、事業者アンケートの中で売上や利益が前年より増えたか減ったかなどを把握するしかない。KPI に定めた数値が限界のあるものだということを認識した上で、商工会や委員のみなさんが日常感じておられる実感値を踏まえて、振興会議の議論に反映させていくということをロードマップの中に記載し、KPI だけをチェックしたらいいというものではないことをわかるようにする必要がある。例えば、国の景況調査では、タクシードライバーに夜間の売上状況を尋ねたりすることを含めて景況判断をしている。はっきりとした数字に表れない部分もつかんでいかないと正確な判断はできない。今回 KPI を決める中で、法人税の納税額などのいろいろな指標を検討したが、どれも一長一短であった。はっきりと数字でわかるのはこの数値だが、金融機関などに協力いただき補足的なものを示す必要があると考えている。

事務局：KPI については目安と考えていただき、補足的なものを探す努力を引き続き行い振興会議の中で KPI の進捗説明をしっかりとさせていただきたいと考えている。

委員：KPI については、現状維持ではなく、多少は意気込み的な数字を入れてはどうか。

会長：ロードマップの KPI は本日決めなければならないのか。

事務局：本日いただいたご意見を基に事務局案を作成し、書面などで委員のみなさまに送付させていただき、ご意見をいただけたらと考えている。商工振興ビジョンについては議会承認が必要で、必ず3月中に策定する必要があるが、ロードマップは議会への報告義務はないため、もう一度内容を検討させていただきたい。なお、外国人人材については、事業者のニーズ把握から始めなくてはならない状況である。外国人人材などを含めた表現で、求める人材に幅を持たせた形でロードマ

ップへの記載を検討していきたい。

副会長：当初ロードマップを策定した経緯は、第一期ビジョンが大風呂敷を広げすぎたため、全ての項目に取り組むことが困難であったことから、その中でも優先的に取り組む項目を抽出し、取組項目を明確にするためである。よって、第一期のロードマップはビジョンの策定からかなり遅れて策定している。ただし、各事業の継続性もあるので、令和7年度中には策定しなければならないが、全体として了解が得られていれば、少し策定期間が遅れてもよいと思う。したがって、ロードマップを拙速に決めるのではなく、もう少し詰めて、意義のあるロードマップに上げていきたいと考えている。令和7年度上半期くらいを目途に策定していけたらと思う。

委員：予算との関係はどうか。

事務局：令和7年の予算は既に決まっているが、令和8年度を見据えて議論していくことは可能である。ロードマップについては、令和7年度上半期に修正案を示し、振興会議で議論いただけたらと考えている。

会長：来年度、現委員の半数が交代する可能性がある。そんな中で、ロードマップの議論をすることは難しい。よって、今年度内にもう一度、振興会議を開催するなどして議論を進め、ロードマップを策定するのが現実的である。例えば、市内金融機関の支店長に集まってもらい、市内中小企業の売上や利益の状況を肌感覚でどう思っているのかを調査してみるとか、できることはあるのではないか。令和6年度内に、現委員によってロードマップを策定すべきである。

副会長：先ほど令和7年度上半期策定するとの発言をしたが誤りで、令和6年度内にロードマップを策定する方向で進めていくべきと考える。

事務局：委員の任期が今年3月末までとなっており、4月には異動なども考えられるので、令和6年度内の策定を目指していきたいと考える。会長・副会長とも相談しながら、3月に振興会議を開催することも含めて考えていきたいと思う。

委員：ロードマップの12ページに「まちの賑わい創出」とあるが、私は市外から栗東市に来たのだが、本市の課題は駅前の開発であると考えている。駅前の賑わい創出において令和7年度に検討すると記載されているが、これは振興会議の中の議論を予定しているのか。

事務局：この検討というのは、振興会議ではなく、市の関係部署を含めて対応を検討していくとの認識である。

委員：守山市や野洲市では大手メーカーの進出が計画されており、本市でもそういったミクロの具体的な議論ができればと考えている。そういった議論は振興会議ではないのか。

事務局：駅前の賑わい創出については、企業立地だけではなく、日本青年会議所が主催する夏祭りなども含まれる。また、空き店舗等の対策については駅前の賑わい創出という視点で取り組んできたものである。どういった施策が効果的であるかを市で検討し、より具体的な取組内容を振興会議で示していきたいと考えている。

委員：ロードマップはどういう方がご覧になるのか。

事務局：商工会を通じて会員企業に配布する予定であり、主に市内事業者になる。

委員：KPIを現状維持とするならば、なぜこの目標にしたかの簡単な理由を記載すべと考える。

事務局：事業者のマインドを高めるためにも、ロードマップに注釈をつけるなど、現状維持とした理由を明記したいと思う。

会長：それでは本日の意見をまとめていただき、事務局でロードマップの修正案を作成いただき、可能であれば3月に振興会議の開催することも含めて検討していきたい。

（４）その他

○事務局説明

- ・本日の議論の中で意見等があれば、添付の「ご意見シート」にて事務局まで提出をお願いする。

【おもな意見交換】

→特になし。

6. 閉会

（近藤副会長あいさつ 省略）